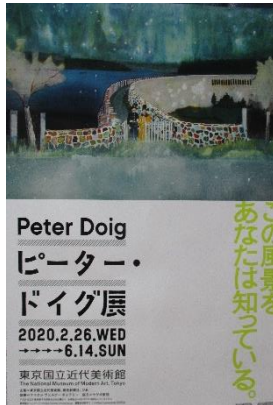


## ピーター・ドイグ Peter Doig 展

東京国立近代美術館（北の丸公園） 2020.02.26～06.14

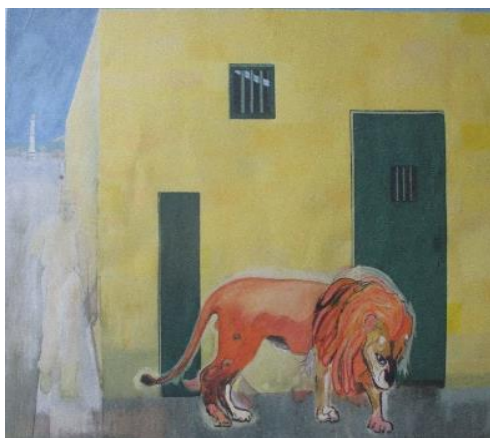


「ピーター・ドイグ」(1959～ )は、ロンドンで現代アートを学び、1980年代はモントリオールで活躍して同世代や後続世代のアーティストに多大な影響を与えたために、過去の巨匠になぞらえて“画家の中の画家”といわれている。

画伯は、ロマンティックかつミステリアスな風景画を描く画家として、今日、世界で最も重要な現代アーティストのひとりとされていて、作品は「ゴーギャン」「ゴッホ」「マティス」「ムンク」といった近代絵画の作品の構図やモチーフ、映画のワンシーンや広告グラフィックに、自から暮らしたカナダやトリニダード・トバコ風景などを組み合わせて制作している。

画風は、カヌーが浮かぶ静穏な湖や、森の奥にたたずむ近代建築といったような物語を誘発する風景に、画面表面を富裕する絵の具を対照させることで、絵画に夢や記憶が持つような時間性を与えていて、イメージソースに映画や雑誌をもとにした写真を数多く取り入れているのが作品の特徴である。1990年代以降のイギリスのアートシーンを代表する存在となった、画伯の作品に不思議と魅せられるのは、“どこかで見たことのあるようなイメージを用いながらも、全く見たことのない世界を見せてくれる”からとされている。

本展は、イギリスが誇る画伯の初期作から最新作までを紹介する「日本初個展」で、絵画から広がる想像の旅へ皆さんをお連れしますと案内がされている。



- |                          |         |          |
|--------------------------|---------|----------|
| 《ガストホーフ・ツア・ムルデンタールシュベレ》  | 2000～02 | 油彩/カンヴァス |
| 《ポート・オブ・スペインの雨（ホワイトオーク）》 | 2015    | 麻に水性塗料   |
| 《ラペイルーズの壁》               | 2004    | 油彩/カンヴァス |